

3回目の出場で初優勝

最長280ヤードの飛距離

《九州小学生大会男子の部優勝》

2アンダー 70

谷口 絢飛（鹿児島・西原台小6年）



【写真は優勝の谷口(左から2人目)と上位選手】

優勝を知らされた時、思わず短い言葉を発した。「えっ、ホントですか?」。同じ組でラウンドした山之口大翔（住吉小6年）と同スコアの70。谷口は試合では3度目となるプレーオフを予想していたのだろう。しかし、今大会にはプレーオフはなく、規定ではマッチングスコアカード方式で決まることになっている。アウト、インのスコアは谷口の35・35に対し、山之口は34・36。インのスコアを比較してより少ない谷口に軍配が上がった。

「規定は知らなかった。嬉しい。今日はパターが良かった」と3回目の出場での優勝に喜びを表した。武器は最長280ヤード、平均で260ヤードを誇るドライバー。ミドルホールでは第2打が70ヤードほど残り、それをウエッジで攻める。出だしの1番

で2 mを沈め、5番でも1・5 mのバーディーパットを決めて2アンダー。最終18番ロング（486ヤード）では、打ち下ろしではあるが、残り159ヤードの第2打を8 Iで2オンに成功して楽々のバーディーである。

鹿児島県鹿屋市生まれ。祖母の影響でクラブを握ったのは3歳から。5歳から本格的に始める。今は週1回、トレーナーについてマンツーマンでのトレーニングで体幹を鍛える。その成果でドライバーの飛距離が20ヤードアップした。身長はこの1年で10 cm伸びて168 cm。小学校（1学年90人）では最も背が高い。体重も6 kg増えて60 kgに。体が大きくなるにつれてゴルフの腕前も上達してきた。

「憧れのプロや、目標とする選手」の質問に「いません」と答えた。将来、どんなプレーヤーになるのか楽しみだ。

試合での自己ベストで初V

世界大会でも4位の実績

《九州小学生大会女子の部優勝》

1オーバー 73

金城 桃音（沖縄・天妃小5年）



【写真は優勝の金城（中央）と上位選手】

世界大会4位の実力を文字通り発揮した。金城は先月、米国で開催された「FCGキヤロウェイ世界選手権」に日本代表の1人として出場。10、11歳の部で4位に食い込んだ。その勢いを持ったまま初出場で今大会を制した。「九州で勝ったのは初めて。とても気分がいい」と目尻を下げた。

安定感のあるプレーだった。インスタートでボギーは4番の1個だけ。前半を37で折り返すと、アウトの1番でもスコアを1つ落とすものの、6番で2・5mのバーディーパットをねじ込んで後半はパープレー36。「今日はアプローチとパターがうまくいった」。終わってみれば、2位に3打差の余裕の勝利。これまでプライベートでは73がベストだが、試合でも同スコアをマークした。初めてのコースということで大会前々日と前日の2日間、入念にチェックした成果が出たのかもしれない。

ゴルフは7歳から始めた。「4歳上の姉（梨音＝上山中3年）がしていたので」と自然に入っていく。ドライバーの平均飛距離は210ヤード。身長は今年全英女子オープンを制した山下美夢有と同じ150cm。憧れのプロは渋野日向子と同じ沖縄県出身の山城奈々だ。

小学生大会は最上級の6年生が優勝するケースが多いが、2023年は当時5年生の嶋田もみじが勝ち、2024年と2年連続で初の連覇を成し遂げた。5年生の金城にもそのチャンスがある。

《湯布高原ゴルフクラブ》



